

エンカレッジファームिंग(株)(新潟県新潟市)

実証面積合計：0.3ha

実証課題名 省人化テクノロジーと最適な運用方法実証PRJ

構成員 inaho(株)、エンカレッジファームING(株)、新潟県新潟地域振興局巻農業振興部、新潟県農業総合研究所園芸研究センター



背景・課題 施設栽培の現場では、全作業時間割合の半分近くを占める収穫作業がアルバイト・パートにより行われ、人手不足・高齢化・最低賃金の上昇等が経営に大きな影響を及ぼしている。また、感染症拡大防止に係る外国人の入国制限の影響により、省人化・機械への代替が一層求められている。



エンカレッジファームING(株)
ミニトマト圃場(新潟市西蒲区)の外観

本実証プロジェクトにかける想い

農業人口減少や高齢化の進む日本では、経営体あたりの生産性を上げるため、省人化・機械への代替が強く求められています。

ロボットや技術を活かすには、収穫率や動作速度といった技術的な課題と、人とロボットと植物の特徴それぞれを理解し、適切な形をデザインする必要があります。

圃場の生産・環境データと経営データと組み合わせることで、農業経営の新しい可能性を示したいと考えています。

- 目標**
- 収穫作業時間の5%程度の軽減
 - サービス型の自動化機械の稼働日数100日以上
 - 実証区における、1%以上の経営改善効果の創出

実証する技術体系の概要

要素技術 ①ミニトマト自動収穫ロボット ②電動収穫台車(人間用) ③自動搬送ロボット

| 時期 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 「見られる」ポイント | | | | | ① | | | | | | | |
| | | | | | | ② | | | | | | |
| | | | | | | | ③ | | | | | |

①自動収穫ロボットのイメージ写真



②電動収穫台車(人間用)のイメージ写真



③自動搬送ロボットのイメージ写真



問い合わせ先

▶実証代表 inaho株式会社
▶視察等の受入について info@inaho.co (担当：藤井)